

ディプロマ・ポリシー			カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本学科では、本学が定める修業年限を満たし、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得したうえで、次のような能力・資質を身につけた者に対し、教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（歴史文化学）の学位を授与します。</p>			<p>本学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> <p>本学科が開講する科目は、専門の学修の基礎となる「基礎教育科目」と専門的知識・技能を段階的に高めてゆく「専門教育科目」を2つの柱として構成します。</p> <p>「基礎教育科目」は、「歴史文化資料論」「歴史文化フィールドワーク基礎」など高等学校までの学修内容を踏まえながら大学での専門的学修へ円滑に移行していく科目、および「文化・歴史研究と情報」など実践的な課題への対応を目的とする科目によって構成します。</p> <p>「専門教育科目」は、全体を「歴史文化研究の基礎」「歴史文化の諸相」「歴史文化の応用と展開」「研究と実践」「言語とキャリア」の5つの部門に分ち、基礎から実践までを体系的かつ順次的に学べるようにします。1年次の「日本史概説」「人文地理学」「文化人類学概説」「女性史概説」などから4年次の「卒業論文」まで、本学科の中核となる専門学修を段階的に配当する一方で、「日本の祭礼 春夏秋冬」「食の文化誌」「装いの日本文化」など、文化事象のうちの個別具体的なことから取り出して詳しく体験的に学ぶ科目を配置します。カリキュラムを構成する領域は、古代から現代に至る歴史学、地理学、文化人類学、民俗学、言語生活、文化史、女性史などであり、学生はそれぞれ関連付けながら学ぶことで知識と関心の幅を広げます。3・4年次の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」では、学生が自らの意思で選択した専門領域に即して主体的・能動的に学び、それぞれの知識を定着・深化させ、歴史・文化を体系的に把握します。</p> <p>技能・表現に関する科目では、現物史資料の取り扱いを双方向的な授業形態で行い、学生が主体的に学び、発信する姿勢を養います。「地域文化研究」と「地域文化フィールドワーク（Ⅰ～Ⅱ）」は近隣の自治体と連携を図りながら阪神間また兵庫・近畿地方を対象として学習・臨地調査を行い、調査結果を発信してゆくものです。それらの成果がすべて「卒業論文」に結集されます。</p> <p>「基礎教育科目」および「専門教育科目」の系統的な学修を通して、日本史および隣接領域に関する広範な知識・技能を修得し、実践的な歴史的思考を身につけ、課題発見能力、問題解決能力を獲得します。</p>	<p>本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p> <p>日本の歴史・文化に関心を持ち、それらの学修を通して得た専門的知識と技能を活かして、①論理的、批判的思考力を備え、高いコミュニケーション能力を有する職業人として社会に貢献しようとする意欲を持った人、②中学校の社会科教諭、高等学校の地理歴史科教諭、図書館司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員等の職業に就き、それぞれの分野で活躍し、社会に高く貢献しようという意思を持った人、を求めます。</p> <p>具体的には、高等学校において歴史総合をはじめ、日本史・地理分野を深く学び、加えて外国史および外国語にも一定の知識と関心を持ち、文系・理系とも幅広く学修して基礎的な学力を確保していることが必要です。</p>
1. 知識・理解	1-1	日本史および隣接領域（日本地理学、民俗学、人類学、考古学、文化史等）に関する基礎的・専門的知識を修得している。		
	1-2	日本の歴史および日本の文化を体系的に理解し、他国の歴史・文化との関連性を正しく認識している。		
	1-3	本学が所在する阪神間とその周辺領域に根付いた歴史・文化を深く理解している。		
	1-4	女性の歴史的・文化的な役割や機能を理解し、女性としての未来を作り上げる基盤となる歴史的意識・態度を体得している。		
2. 技能・表現	2-1	日本史および隣接領域の特性を深く理解し、自らの思考を他者に適切に発信する能力を備えている。		
	2-2	史・資料を正確に読解し、それを分析的かつ客観的に評価するための能力を備えている。		
	2-3	情報機器等の取り扱いを通じてその重要性を理解し、それを活用するための技能と豊かな表現力を身につけている。		
3. 思考・判断	3-1	日本史および隣接領域に関して身につけた専門的知識をもとに、批判的に考察する能力を備えている。		
	3-2	論理的思考力を身につけ、自ら課題を発見して、解決に導く能力を備えている。		
4. 態度・志向性	4-1	日常生活のなかで大学における学修の価値を認識し、常に学問的な態度を保っている。		
	4-2	広範で体系的な知識と、豊かな感性、および知的好奇心を備えながら、高い倫理観に基づいて自らの専門領域を探索しようとする強い意欲と意思を持っている。		